

～米の消費行動に関する調査結果(2009年調査)の概要～

【調査概要】

■調査方法	インターネットリサーチ			
■調査地域	全 国			
■調査主体	社団法人 JA総合研究所			
■実施機関	株式会社 インテージ・インタラクティブ			
■調査日時	2009年3月24日(火)～3月30日(月)			
■調査対象	全国の主婦・単身者男女			
■有効回答者数	Yahoo!リサーチ モニター会員 n=1,360 単位:人(構成比)			
	合 計	主 婦	女性単身者	男性単身者
	20代以下 153(11.3)	55(5.6)	52(25.6)	46(26.9)
	30代 234(17.2)	178(18.1)	29(14.3)	27(15.8)
	40代 396(29.1)	340(34.5)	35(17.2)	21(12.3)
	50代 308(22.6)	252(25.6)	32(15.8)	24(14.0)
	60代 158(11.6)	104(10.5)	27(13.3)	27(15.8)
	70代以上 111(8.2)	57(5.8)	28(13.8)	26(15.2)
	合計 1,360(100)	986(100)	203(100)	171(100)
	(100)	(72.5)	(14.9)	(12.6)

社団法人 JA総合研究所(略称:JA総研、所在地:東京都千代田区)は、生産農家等の生産・販売計画作成の参考となるデータを提供するため、農畜産物に関する消費者の購買行動・食品に関する知識・嗜好などを調査・分析しています。

今までに公表した調査:

- ◎「米の消費行動に関する調査」(平成20年3月公表)
- ◎「野菜の消費行動に関する調査」(平成20年6月公表)
- ◎「米の消費に関する調査」(平成20年10月公表)
- ◎「肉の消費行動に関する調査」(平成20年11月公表)
- ◎「果物の消費行動に関する調査」(平成21年2月公表)

調査結果は、JA総研のホームページ(<http://www.ja-so-ken.or.jp>)でご覧いただけます。

～本件に関するお問い合わせ先～

社団法人 JA総合研究所 基礎研究部 主席研究員 濱田亮治 TEL 03-5214-0841

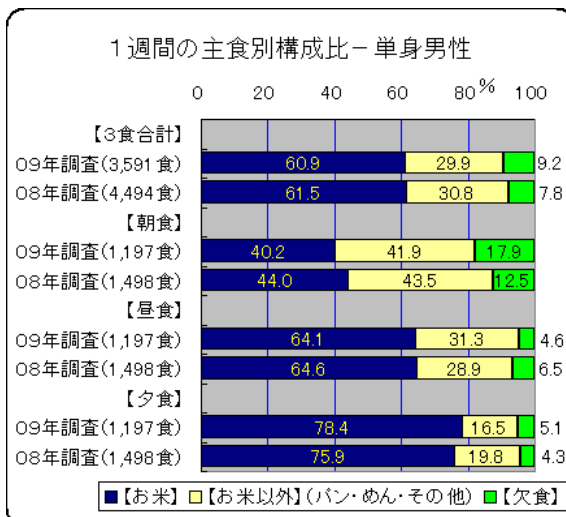
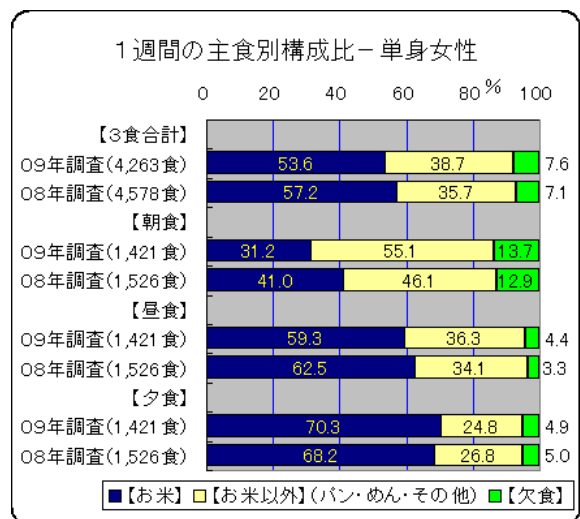
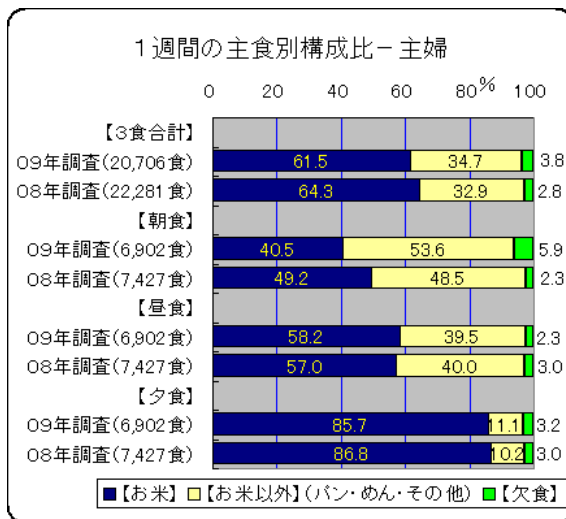
<調査結果の概要>

1. 主食別の食事の回数 ~【お米】主婦、単身女性で若干減少

07年夏以降の小麦製品の値上がり等を契機に、08年上期は“コメ回帰”が注目されていましたが、今回の調査であらためて1週間分の主食別※の食数を聞いたところ、08年1月時点と比較して、主婦層・単身女性層ではお米を主食とした食事の回数がむしろ若干減少していることがわかりました。単身男性では、主食別の構成にほとんど変化は見られませんでした。

主婦層・単身女性層のお米の減少の要因を見ると、朝食にお米を週に1回も食べなかった人が増えており、その分、主婦層では「その他の食事(シリアル類、果物やヨーグルトのみ)」や「食べなかった」回数が、単身女性では「パン類」の回数が増えています。

家庭で炊いたご飯の回数が減ったとする人のうち、主婦層では「朝バナナダイエットに取り組むようになったから」が相当数いることから、ダイエットが朝食におけるお米の減少や欠食につながっている可能性があると思われます。また、単身女性では「料理・炊飯が面倒になった／時間がなくなった」との回答が多く、特に、時間的な余裕がない朝食においては手軽に食べられるパン類が増えたと考えられます。



※主食を8種類(【お米】家庭で炊飯したご飯、加工食品のお米、調理済食品のお米、外食のお米 【お米以外】パン類、めん類、その他(シリアル類、果物やヨーグルトのみ) 【食べなかった】)に区分して、朝食・昼食・夕食ごとに1週間の食数を調査

家庭で炊飯したご飯の喫食量の1年間の変化を聞いた設問に対しては、08年8月時点の調査(07年8月→08年8月間の変化)では、主婦の27.8%が“増えた”と回答、“減った”(11.3%)を16.5ポイント上回っている状況でした。今回の調査(08年3月→09年3月間の変化)でも“増えた”は14.9%と“減った”(9.2%)を5.7ポイント上回っているものの、08年8月時点に比べて“増えた”が半減し、増減差も10ポイント以上縮まっています。

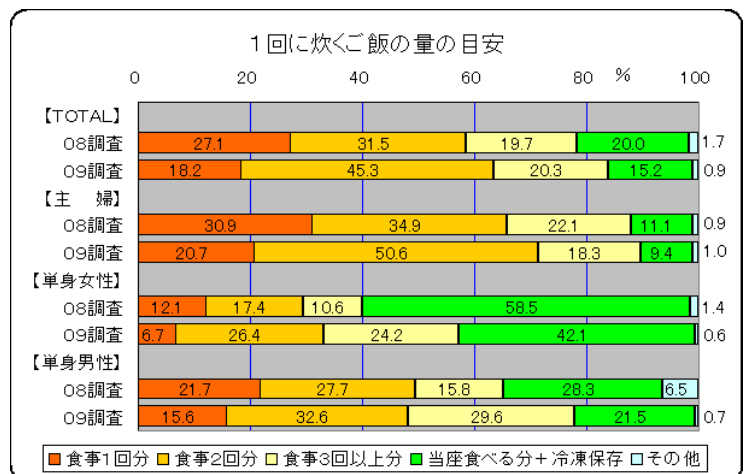
主婦層・単身女性層の【お米】の食数減少と合わせて考えると、08年の前半に比べて実際の行動面での“コメ回帰”の勢いは弱くなっているものと考えられます。

2. 1回に炊くご飯の量の目安 ～内食化を反映し、“食べきり派” “お弁当派”が増加～

主食別の食数は全体的には大きな変化は見られなかったものの、“1回に炊くご飯の量の目安”は前回調査(08年1月)と様相が違ってきています。

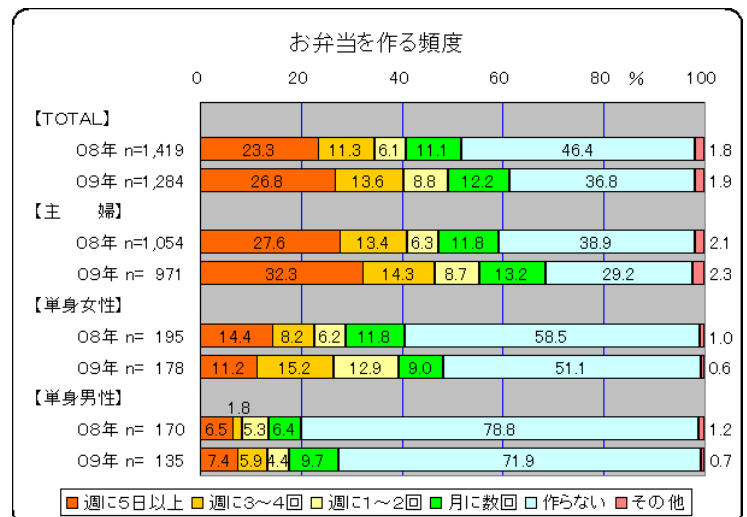
主婦では、「1回に食事1回分を炊く」が減少、単身者では加えて「当座食べる分+最初から冷凍保存する量」も減少し、その分「食事2回分(含 お弁当分)」「食事3回以上分(同)」が増加しています。

ご飯を食べるときだけ炊いたり、いつか食べる分として冷凍保存する人が減って、一度ご飯を炊いたら何食か続けてご飯を食べる人が増えており、内食化の傾向が、ご飯を炊く量の目安に表れていると言えます。



また、お弁当を作る頻度でも、週に1回以上お弁当を作る人は、全体では49.2%で前回調査から8.5ポイント上昇しています。

外食・中食率が高い昼食において、内食に切り替えている人が増えており、お弁当を作る頻度からも内食化の傾向を読み取ることができます。

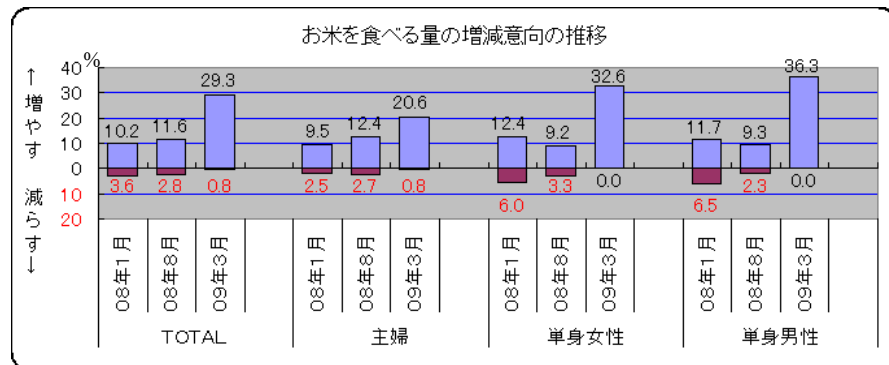


3. 今後、家庭で炊くご飯を食べる量の意向

～依然、増やしたい意向は強い。ただし、積極派は少数～

前述のとおり、実際の行動面での“コメ回帰”の勢いは弱くなっているものの、お米を増やしたい意向を持っている人は逆に増えています。

「今後、家庭で炊くご飯を食べる量を増やしたい」は29.3%で、08年1月調査・8月調査の3倍近い数字となっています。特に、単身者層で増やしたい意向を持っている人が急増しています。



ただし、増やしたい理由を見ると、08年の調査※とは内容の変化が見られます。

08年1月時点で米を増やしたい理由の一番であった「外食・中食、パン類より、お米が安いから」は、08年1月調査(56.9%)から今回(29.6%)と大きく減少しました。

一方で、「外食・中食を減らして、内食を増やしたいから」を挙げた人は59.0%と、08年8月調査で同様の理由を挙げた人(39.3%)を20ポイント近く上回り、「内食を増やしたいので、結果として家庭で炊くご飯が増える」流れとなっています。

「パン・めん類・加工食品等を減らして、お米を増やしたい」と主食間の移動を挙げた人(33.2%)は内食の増加を挙げた人の半数程、また、「お米が好きになった／家庭で炊いたご飯はおいしいから」も16.0%にとどまり、お米を増やしたい人でも、お米の価格面やおいしさを評価して積極的にお米を増やしたい人はそれ程多くはなさそうです。

お米を増やしたい意向を消費拡大につなげるには、“内食”にからめて、いかにお米に注目してもらうかがポイントになると考えます。

※選択肢の内容が異なるため、今回調査の選択肢の内容に合わせて、同様の内容の選択肢をグループ化して再集計を行いました。



調査項目

1. 直近1週間の主食別の食数は？
2. 炊飯したご飯を食べる量の増えたか、減ったか？ その理由は？
3. お米をどこで購入(入手)しているか？ 主な購入(入手)先は？
4. 購入先と購入するお米の組合せパターンは？
5. 購入したお米の運搬方法は？
6. 購入しているお米の種類(精米方法、栽培方法)は？
7. 1回に購入するお米の数量は？ 食べきる期間は？
8. 主に購入しているお米の価格は？
9. 購入しているお米の満足度は？
10. 食べたことがある、主に購入する、食べてみたい・食べ続けたいお米は？
11. お米を購入する際にこだわる点、その理由は？
12. お米の価格が変動したときの行動は？
13. 1回に炊くご飯の量、その目安は？
14. お弁当を作る頻度は？
15. 炊飯に関して困っていること、嫌なことは？
16. ご飯(お米)のおいしさを決めるものは？
17. 米の売り場や商品への要望は？
18. 今後、家庭で炊くご飯を食べる量はどうか？